

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

1. **健康な心と体** 元気に遊び、生活する力。体を大切にし、健康で安全に過ごそうとする気持ち。

「次は何をするか」といった生活習慣を身につけたり、「何のためにするか」ということを理解したりするようになる。自分達で健康や安全面での生活の充実を図れるようになっていく。

2. **自立心** 自分のことは自分でしようとする気持ち。失敗しても挑戦する力。

いわゆる「非認知能力」と呼ばれる部分 主体的な遊びの中で自分の力を使ってやり遂げたい目的を見つけ、イメージを描きながら、友達や保育者との言葉のやり取りをし、そして最後までやり遂げる努力をすることで満足感を得たり、自信を深めることができる。

3. **協同性** 友達と一緒に活動する楽しさを感じ、思いやりをもって関わる力。

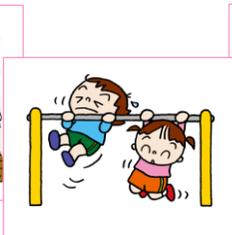
友達と一緒にやることで、自分一人でやるよりも大きく素敵なことを実現できることがわかってくる。その経験を通してグループの仲間と共通の目的に向かって活動する楽しさを知り、充実感を感じる。自分だけでなく相手も満足できるよう工夫する方法が身につく。

4. **道徳性・規範意識の芽生え** 良いこと、悪いことがわかり、相手の立場や気持ちを考えられる心。

遊びの中での葛藤や衝突などの体験から、ルールを理解したりその必要性に気付いたりという道徳性や規範意識、自分の気持ちを調整する力や人への思いやりの気持ちが育っていく。

5. **社会生活との関わり** 身近な人との様々な関り方に気付き、その中で自分が役に立っている喜びを感じる。情報を役立てながら活動する力。

集団や社会の一員として様々な地域の身近な人と触れ合う中で社会とのつながりを意識したり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつ。自分たちの遊びの目的に沿って情報を取り入れ、それらの情報を共有し、遊びをより面白くする。



10の姿は、幼児教育と小学校をつなぐものです。

入学前までに達成すべき到達目的ではなく、5歳児の終わりには生活の中にこういう姿が現れてくる、それを意識して保育を構想し、振り返ってほしいということから「目標」ではなく「姿」という言葉が使われております。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

6. **思考力の芽生え** 身近な事象に好奇心をもって関わる中で、様々な発見や不思議さに気づき、探求する気持ち。「なぜ? どうして?」を考え、試してみようとする力。
物事の仕組みに関心が向かう時に「科学する心」が芽生え、あれこれ調べたり、試したりする中で物事の規則性に気づき、よく考える習慣が身につく。また、友達と一緒に考え他の子の考えを知ること、様々な考え方があることに気付く。
7. **自然との関わり・生命尊重** 自然の美しさや不思議さ、生き物の命を大切にすること。
自然の変化を感じ取ったり、不思議さや面白さなどから好奇心や探求心をもったりして、より積極的に自然と関わるようになる。また、体験を言葉にして保育士に伝えたり、子ども同士で伝え合ったりして、好奇心や探求心が益々高まっていく。
8. **数量や図形、標識や文字への関心・感覚** 数や形、文字に親しみ遊びの中で興味を広げること。
子ども自らの必要感に基づいた多様な体験を通して、数えたり量ったりして対応していくことの面白さや、文字を通して広がる世界を実感し、楽しみながら感覚を豊かにし、「深い学び」を得る。
9. **言葉による伝え合い** 自分の経験したことや思いを言葉で伝えたり、相手の話を聞こうとする姿勢。
先生や友達とともに絵本や物語などに親しみながら、言葉の持つ意味を理解したり、体験したことを伝えたりして、豊かな言葉や表現を身につけていく。「言葉で自分の思いを表し受け止めてもらう経験」と「言葉を通して、他者とつながる経験」を重ねながら、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
10. **豊かな感性と表現** 感じたことや思いを、音・絵・動きなどで自由に表現する力。
心を動かす出来事などに会った時、そこから子どもが何かを感じ（感性）そこで生まれた思いや感情をいろいろなものを使って表す（表現）ことができるようになる。

